

＜朝露＞9月中旬は処暑と秋分の間の“白露”にあたり、名の通り朝露が目立つ候です。露といえば“ツユクサ”、夏の初めから咲いていますが秋の花です。花の青い色がすぐに着くため“つきくさ”とも



＜ツユクサ＞



＜ムラサキツユクサ＞

いいます。しかしすぐに色が抜けるので人の心の儂さの喩（たとえ）として万葉の頃から詠われています。そこで心安らぐ俳句を一つ「つきくさのはなに離れてうてなかな」(虚子)。ツユクサより花が大きく多く色も濃いのが“ムラサキツユクサ”、生物の実験材料にもなるようですね。元は観賞用でしたが野生化しています。

＜大きな鼻＞ハギの仲間では大きめの花の“アレチヌスビトハギ”があちこちで咲き出しました。大きな鼻をした小人のようで、花には失礼ですが“ヌスビト(盗人)”らしく頬かむりをしているようにも見えます。この“ハギ”は外来植物で次第に幅を利かせてきています。同じくタフなのが“クルマバザクロソウ”で踏みつけられても5mmほどの小さな白い花と実を付け頑張っています。尖った葉の付き方から“クルマ”、実の形から“ザクロ”とのことですが実の形はさてどうでしょうか。小さな花といえば今“ミズヒキ”が盛りです。長い柄に赤と白の小さな花が点々と付いています。



＜アレチヌスビトハギ＞

＜大きな花＞栽培植物ですが目を惹く花が咲いています。“ワタ”の花(下写真)で咲きたては白ですが翌日にはピンクになっ

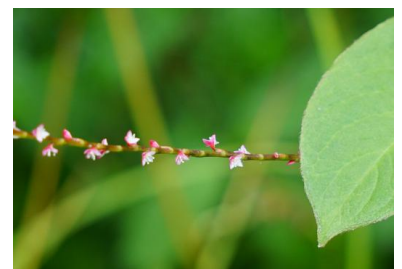


ています。大学ならではですね。研究用に栽培されているようです。



＜クルマバザクロソウ＞

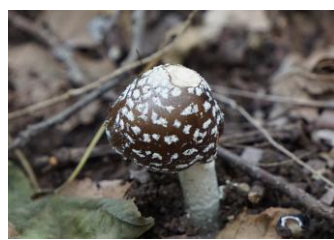
＜キノコの季節＞今年はキノコの当たり年とか。雑木林の落ち葉の間に大きな（笠の径が20cmほど）キノコがニョキニョキと姿を現しました。写真のようにあちこちを食べられています。どうやら美味と言われる“ヤマドリタケモドキ”のようです。しかし食べているダンゴムシに「ヒト



＜ミズヒキ＞



＜ヤマドリタケモドキ？＞



＜テングタケ＞

が食べても大丈夫？」と訊ねるわけにもいかず手が出ません。一方、見るからに食べると酷い目に会いそうな“テングタケ”も見つかりました。これさえ食べる生き物もいるのですね。天辺を齧られています。

(文と写真：松本正勝)